

3.平成29年度卒業生

<地域枠>

- ✳ 大山 真英
- ✳ 友田 万莉
- ✳ 中村 堇
- ✳ 森脇 健次
- ✳ 山下 ちひろ

<一般枠>

- ✳ 岡田 雄二郎
- ✳ 松岡 隼平

■ 大山 真英

まず初めに、6年間多くの方々に多大なるご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。

この6年を振り返ると、ほとんどの時間を部活に費やしたように感じます。残りの時間で進級のために勉学に励むことは自分にとってはなかなか厳しいものではありませんでしたが、なんとか卒業までくることができました。このような中でも、金銭面でほとんど苦労することなく生活することができたのは県の皆様からの医師修学資金のおかげだと、いま改めてそのありがたみを感じています。

また在学中は、地域医療ゼミへの参加の状況がとても悪く、大変申し訳なく思います。働き始める前に、自分なりにではありますが少しでも学ぶ機会を設けようと思います。

4月からは医師として、熊本大学で学んだことを地域の方々に還元できるよう微力ではありますが、医療に励んでいけたらと考えています。

最後になりましたが、指導していただきました地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、スタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。大変お世話になりました。今後ともどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

■ 友田 万莉

熊本大学に入学してからの6年間はあっという間に過ぎた。今から考えれば入学時の面接からがすべての始まりであった。

地域医療では毎年夏に熊本の僻地などに合宿にいき、実際に地元の方々とお話しをしたり、病院見学をする機会を与えてもらえる。1年生の夏休みに初めて五木村を訪れて地元のスーパーなどを歩いて人々に医療関係で困っていることはないかと聞いて回った体験は自分にとってとても鮮烈なものだった。迷惑そうな顔をして悪態をつき歩き去ってしまう人もいれば熱心に話をしてくださる人もいていろんな人間がいるのだなあと考えさせられた。地域のひとすべてが医師や学生に好意的であるという自分の中にあつた根拠のない神話が良い意味で崩れた出来事であった。

訪れる場所によって様々なひとびとがそれぞれのニーズを抱えて病院を訪れる。そこで医師は主役である地域の方々に手を添える。そういう形で医療が行われていることに気づいたのはきっとこの実習のおかげだと感じている。そしてその裏には多種多様な医療の連携があり、一人の患者さんをみんなで囲むようにしているのだ。

5年生の夏にクリニカルクラークシップで訪れた天草地域医療センターでは実際の地域医療の現場をみるととても良い機会となった。代謝内科を主にまわったが病診連携の大切さや、患者さんの地域独特の風習を自ら知ろうとする姿勢の大切さをご指導頂いた。印象に残っているのはお婆さんとその娘らしい女性がお婆さんの糖尿病治療で病院に来られたときのことだ。身内だと思っていたその二人は話を聞いている内に違うことが分かり、ご近所に住まれているだけだということがわかった。後で聞くと、そうやってご近所同士で助け合う習慣が地域ではまだ一部残っているときいた。とても暖かい気持ちになれた。また、ご臨終の際は死後硬直前にどのように体を組むかも一部の宗教でちがいががあるので聞いておくといいいことなどを知った。こういう小さい気遣いが患者さんとの信頼関係、ひいては地域に溶け込むひとつのきっかけになるのだなあと感じた。

これから自分は研修医になり、まずは基本的な臨床手技を身につけるが、手技だけでなく患者さんの心もみることが出来る医師を目指して頑張りたい。

■ 中村 董

私は熊本出身でありながら、入学するまではあまり地域医療の現状を深く考える機会や触れる機会がありませんでした。この6年間で地域枠の毎月の活動や夏の年に1回の実習を通して、様々な面から熊本県内の現状や医療を学ぶだけでなく、地域の方々とのコミュニケーションを取ることができました。地域医療に対して、不足している部分を強調されることが多く、私自身足りないところばかりに目が行きがちでしたが、実際学ぶことで、発展してきている面や、改善してきている面も目の当たりにすることができ、地域医療に対してだけでなく、熊本県内の医療の取り組みなども含めて多くの事を知ることができました。

また、ゼミを通して、先輩方や先生方の考え方をお聞きすることができ、自分にとって将来の進路を考える上でとても参考になり、自分できちんと考えていかなければいけないと痛感しました。

4月から県内で初期研修医として働かさせていただきます。6年間の地域枠や大学生生活で学んだことを活かしつつ、自分のこれからの進路についてしっかりと考えていきたいと思っています。

最後になりましたが、6年間支えてくださった多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

■ 森脇健次

まずは6年間、様々な方々にご支援いただき、ありがとうございました。振り返ってみると6年間はあっという間で、毎日、部活に勉強にバイトにと打ち込んでいたらいつの間にか卒業の年になっていました。このように金銭面に気にせず様々なことにチャレンジさせてくれ、たくさんの楽しい思い出を残すことができたのも、医師修学資金があったからだと思います。そのため、この制度にはとても感謝しています。

入学の頃からを思い返してみると、私は地域枠で入学しましたが、ただ漠然と熊本で働けばいいかなとしか考えておらず、地域医療とは何かもわからないまま地域医療ゼミの活動に参加していました。しかし、6年間も活動を続けていくと、地域の方の意見を聞く機会があったり、地域医療を担われている医師の先生方からその想いを聞かせて頂いたり、また、熊大や自治医大の仲間と楽しく過ごしたりと、たくさんのご経験をさせて頂き、徐々にではありましたが、地域医療とはどんなものなのかわかってきたような気がします。プライマリケア学会に参加させて頂いた際には、熊本にこんなに地域医療を担われている方がたくさんいるのだと知り、驚きもしましたが、これから自分も一緒に働いていくのだと思うと心強さも感じました。

4月からは国家試験にさえ合格していれば、いよいよ医師として働き始めます。期待や不安のどちらも感じますが、とりあえずは、がむしゃらに自分のできることをやっつけていこうと思っています。患者さんから信頼され、なおかつ知識や技術も兼ね備えている医師になるには並々ならぬ努力が必要だとは思いますが、その理想に向かって一歩も退かず挑戦していきたいです。そして、一人前になった時に、自分を育ててくれた熊本に恩返しができるよう、また、その姿を尊敬する先生へ報告できるように、頑張っ参ります。

最後になりましたが、今日まで指導して下さった松井先生をはじめ地域医療・総合診療実践学寄附講座の方々、実習や進路等でお世話になった多くの方々に感謝申し上げます。

■ 山下ちひろ

6年前、センター試験本番だけなぜか高得点を取って合格し、これからやっていけるのだろうかという不安いっぱい、恐る恐る入学しました。留年しないためにも勉強一筋でいかなければと思っていたのですが、先輩方の雰囲気やフットサルの楽しさに魅かれフットサル部に入部。3年生ではキャプテンまで務めさせて頂きました。その後も、ポリ前試験で忙しい4年生で自動車学校に通い、ポリクリが始まった5年生で初めてのアルバイト、6年生こそは勉強一筋と思いつつ部活の夏の大会に出場し、振り返ると、いつの間にか、あの頃の自分には想像もできない程、目一杯大学生活を楽しんでいました。そしてこの春、無事に卒業することができます。仕送りもない中、ここまで自分のやりたいことに集中し、安心して生活できたのも、熊本県の医師修学資金制度のおかげです。

また、1年生の頃から毎年、夏季地域医療特別実習として、地域の住民の方々や地域医療に触れ、熊本の医療について学ぶ機会がたくさんありました。学年が上がるにつれ、外の病院で実習する機会こそ増えていきましたが、夏季実習で行ったフィールドワークや意見交換会で住民の皆様や多職種の方々とお話しできたことは、普段の実習ではできない経験でした。中でも、1年生の時に私の地元人吉市で行ったフィールドワークが忘れられません。そこで出会った方に、「田舎では大学病院みたいな技術は求めていないから。患者のことをしっかりと理解して、抱えている不安を取り除いてくれるような、そういうお医者さんになってください。」と手を握りしめられた時、地域の方々の期待の大きさに身が引き締まる思いでした。▶

私がこの制度に所属していなければ、このような貴重な経験を積むことはできなかったと思います。くり返しになりますが、これほど恵まれた学生生活を送ることができたのは皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

春からは、いよいよ医師として働くこととなります。慣れないことばかりで目が回るような日々になるとと思いますが、この6年間で学ばせていただいたことを糧にして、住民の皆さんが安心して暮らせるよう、信頼されるお医者さんを目指して頑張っていきます。

■ 松岡隼平

私は医学生としてのこの6年間で地域枠として過ごしたわけですが、入学時は一般入試で入ってきた組でした。その時に、まだ始まって間もないこの地域枠の制度について耳にし、漠然と将来は地元で貢献できる医師になりたいと考えていたし、奨学金を貰い熊本の地域医療に貢献するというのも私にとってはデメリットは感じなかったので、面接を受けてみようと思いました。そして入学後の地域枠医学生として私の大学生活は始まりました。

地域枠としての活動についてですが、正直まだ制度が始まってそれほど経っていないので活動内容が確立されておらず、むしろ自分たちで活動内容を考えるということをやっていたという印象が強いです。上級学年の指導のもと臨床推論や、Dr.Gや医療をコンセプトとした映画の鑑賞、あとはBLSや国試の問題を解いてみる、中にはプライマリケア学会に行くために香川まで行ったこともありました。中でも1年を通して1番の活動はやはり夏季の実習です。これは実際に地域で行われている医療を目の当たりにしてその実態、長所、短所、改善点などを考えることで、その地域を理解することにおいて、とてもためになりました。自治医科大学の方々との交流もあり、これは将来共に地域医療を担う身となる上で必要不可欠な協力、連携、チームワークを作っていく礎にもなっているとも感じました。

これから地域枠からの卒業生がどんどん増えてきて、今からが地域医療活性化の時だと思います。ぜひ熊本の医療を活性化させ、成功例のモデルケースとなれるよう医師として精進していく所存です。6年間本当に色々ありがとうございました。

■ 岡田雄二朗

卒業にあたって6年間を振り返ってみると、この6年間とても長かったなと思います。もともと老け顔ではありましたが、さらに年をとってしまいました。長かったわりには、すごく勉強したかとは言えず、もっと勉強しておけばよかったなと思います。特に低学年の頃の基礎医学は試験対策に終始してほとんど勉強した記憶がありません。臨床実習に出てみると、そういった基礎医学の重要性を身にしみて感じ、薬理学や統計学をまたちゃんと勉強してみようかなんて思います。4,5年前はそんなこと考えたこともなかったですが、卒業を前に医療者としての自覚が出てきたんでしょうか。ちゃんと勉強すればなんてことないですが、そういったことに気づけただけでもよかったのかなと思います。

地域医療ゼミにも低学年の頃はあまり参加してませんでした。低学年のころはあまり興味もないですし、ある意味仕方ないことかなと思います。ただ、どこかのタイミングで自分の将来を考えると、こういう働き方をするのかとかを考えるようになり、参加するようになりました。まあ、そんな難しいこと考えずに気軽に参加すればいいんだと思いますが、興味がないと退屈になっちゃう気持ちもわかりません、難しいですね。5年生になって、ゼミの世話係をしましたが、準備をするのは毎回試行錯誤しました。6年生になってからはあまり顔を出せなくなりましたが、後輩がうまくやってくれてるみたいで、頼もしい限りです。

地震もありました。夏季実習で被災地を訪れましたが、人の心に寄り添うなんてことは難しいもので、そんな大層な人間には当分なれそうもありませんが、傾聴する姿勢は今後も持っていきたいと思います。6年間楽しい時間を過ごすことができました、ありがとうございました。今後は熊本県の医療に少しでも貢献できるように精進したいと思います。今後ともよろしくおねがいします。

6 業績

1. 地域医療支援機構

◆ 論文、執筆

- 松下正輝, 古川昇, 谷口純一, 加藤貴彦, 西谷陽子, 尾池 雄一, 安東由喜雄, 【医学教育における性的マイノリティに関する講義の実践】, 「医学教育」第48巻・第4号 265
- 谷口純一, ハリソン内科学 日本語版第5版 11章「疼痛」 翻訳
- 谷口純一, ハリソン内科学 日本語版第5版 13章「腹痛」 翻訳
- 後藤理英子, 月刊保団連 2018年2月号 No.1255 子育て中の医師を支援する熊本県の取り組み

◆ 研究

□ 後藤理英子

『鉍質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明』

研究種目：基盤研究C

研究分野：代謝学

期間：平成29年度～平成30年度

◆ 学会発表

- 谷口純一, 【継続性のある総合診療/地域医療に関する臨床研究の教育の構築（第2報）】, 第8回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2017/5/13-2017/5/14, ポスター発表
- 後藤理英子, 前田幸佑, 高柳宏史, 小山耕太, 田宮貞宏, 谷口純一, 松井邦彦, 【日本とドイツにおける医師の勤務環境～男女共同参画の視点から～】, 第8回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2017/5/13-2017/5/14, 口演
- 谷口純一, 【アンプロフェッショナルな医学生に対しての対応はどうあるべきか？教育的活動の試みとその考察】, 第49回日本医学教育学会大会, 2017/8/18-8/19, ポスター発表
- 後藤理英子, 田中顕道, 中村孝典, 香田将英, 楯直晃, 前田幸佑, 高柳宏史, 小山耕太, 田宮貞宏, 古賀義規, 佐土原道人, 谷口純一, 松井邦彦【熊本の医療機関における育児支援の重要性と課題】, 第49回日本医学教育学会大会, 2017/8/18-8/19, 口演

◆ 講演会（講師）

- 谷口純一, 福岡徳洲会病院JMECC指導者講習会 ディレクター, 2017/7/30
- 谷口純一, 熊本大学医学部附属病院群 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 2017/8/25-8/26
- 後藤理英子, 第139回臨床研修指導医講習会, 2017/8/31-9/3
- 後藤理英子, 在宅医療推進のためのお留守番医師制度説明会, 2017/9/11
- 谷口純一, 看護師の特定行為研修に係る指導者育成事業ワークショップ タスクフォース, 2017/9/17
- 谷口純一, J-MELSインストラクターコース インストラクター, 2017/9/17
- 谷口純一, 山口県医師会 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 2017/10/7-10/8
- 谷口純一, 熊本県医師会 生涯教育講座 講師, 2017/10/14

- 谷口純一, 日本内科学会JMECC指導者講習会 ディレクター, 2017/10/21
- 谷口純一, 看護師の特定行為研修に係る指導者育成事業ワークショップ タスクフォース, 2017/10/22
- 谷口純一, 山口大学医学部附属病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 2017/11/3-11/4
- 谷口純一, 熊本大学医学部附属病院臨床研修病院群ICLS講習会 ディレクター, 2017/11/23
- 谷口純一, 熊本大学医学部 医学教育FDワークショップ タスクフォース, 2017/11/25
- 谷口純一, 福岡大学医学部附属病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 2017/12/1-12/2
- 谷口純一, 九州大学病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 2017/12/8-12/9
- 谷口純一, 熊本県医師会 母体保護法指定医講習会 講師, 2017/12/10
- 谷口純一, 全国自治体病院協議会臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース(チーフ), 2017/12/14-12/17
- 後藤理英子, 日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック別会議, 2017/12/16
- 谷口純一, クリニカルクラクシップ 地域医療実習 FD講習会 講師, 2018/1/13
- 谷口純一, 熊本県医師会うつ病研修会 講師, 2018/1/13
- 谷口純一, 九州大学「臨床推論演習」授業 講師(九州大学医学部非常勤講師), 2018/1/16
- 谷口純一, 熊本大学医学部附属病院 看護部急変対応トレーニング 講師, 2018/1/20
- 谷口純一, 産業医科大学病院 臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース, 2018/2/2-2/3
- 谷口純一, 日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・講演会 指導医講習会 講師, 2018/2/2
- 谷口純一, 平成28年度熊本県消防学校消防職員救急科課程 講師, 2018/2/21
- 後藤理英子, 地域における女性医師支援懇談会 クローバーの会, 2018/2/28
- 谷口純一, J-MELSおよび同インストラクタコース インストラクター, 2018/3/21

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文、執筆

- Hasegawa Y, Nakagawa T, Matsui K, Kim-Mitsuyama S. Renal Denervation in the Acute Phase of Ischemic Stroke Provides Brain Protection in Hypertensive Rats. *Stroke*. 2017 Apr;48(4):1104-1107. PMID: 28246278
- Akasaka T, Sueta D, Tabata N, Takashio S, Yamamoto E, Izumiya Y, Tsujita K, Kojima S, Kaikita K, Matsui K, Hokimoto S. Effects of the Mean Amplitude of Glycemic Excursions and Vascular Endothelial Dysfunction on Cardiovascular Events in Nondiabetic Patients With Coronary Artery Disease. *J Am Heart Assoc*. 2017 Apr 26;6(5). PMID: 28446494 PMCID: PMC5524064
- Tabata N, Yamamoto E, Hokimoto S, Yamashita T, Sueta D, Takashio S, Arima Y, Izumiya Y, Kojima S, Kaikita K, Matsui K, Fujimoto K, Sakamoto K, Shimomura H, Tsunoda R, Hirose T, Nakamura N, Sakaino N, Nakamura S, Yamamoto N, Matsumura T, Kajiwara I, Koide S, Sakamoto T, Nakao K, Oshima S, Tsujita K; Kumamoto Intervention Conference Study (KICS) Investigators. Prognostic Value of the CHADS2 Score for Adverse Cardiovascular Events in Coronary Artery Disease Patients Without Atrial Fibrillation-A Multi-Center Observational Cohort Study. *J Am Heart Assoc*. 2017 Aug 16;6(8). PMID: 28862941 PMCID: PMC5586464

- Kusano K, Akao M, Tsuji H, Matsui K, Hiramitsu S, Hatori Y, Odakura H. Study design of GENERAL (general practitioners and embolism prevention in NVAf patients treated with rivaroxaban: Real-life evidence): A multicenter prospective cohort study in primary care physicians to investigate the effectiveness and safety of rivaroxaban in Japanese patients with NVAf. J Arrhythm. 2017 Aug;33(4):297-301. PMID: 28765760 PMCID: PMC5529321
- Hagiwara N, Kawada-Watanabe E, Koyanagi R, Arashi H, Yamaguchi J, Nakao K, Tobaru T, Tanaka H, Oka T, Endoh Y, Saito K, Uchida T, Matsui K, Ogawa H. Low-density lipoprotein cholesterol targeting with pitavastatin + ezetimibe for patients with acute coronary syndrome and dyslipidaemia: the HIJ-PROPER study, a prospective, open-label, randomized trial. Eur Heart J. 2017 Aug 1;38(29):2264-2276. PMID: 28430910 PMCID: PMC5837267
- Kojima S, Michikawa T, Ueda K, Sakamoto T, Matsui K, Kojima T, Tsujita K, Ogawa H, Nitta H, Takami A. Asian dust exposure triggers acute myocardial infarction. Eur Heart J. 2017 Nov 14;38(43):3202-3208. PMID: 29020374
- Michito Sadohara, Reona Wada, Kyoko Nanao, Keisuke Hatamoto, Taku Maejima, Kazuo Nagashima. A case of Sweet's syndrome with parotitis complicated with ileal bleeding. 日本病院総合診療医学会誌 2018;14(2) 掲載予定
- Koda M, Iwasaki M, Yamano Y, Lu X, Katoh T. Association between NAT2, CYP1A1, and CYP1A2 genotypes, heterocyclic aromatic amines, and prostate cancer risk: a case control study in Japan. Environ Health Prev Med., 22:72, (2017) PMID: 29165164 PMCID: PMC5664586
- 高柳宏史. 災害時要援護者（災害弱者）：災害の急性期で実践した心理社会的アプローチの経験. 治療. Vol 99, no 1, 2017, page 906-909.
- 草場鉄周, 金井伸行編集. 総合診療専門医のためのワークブック. 中山書店, 2017 分担執筆 高柳宏史, コミュニケーション, page 386-390
- 香田将英. 予防医療のエビデンス6. 子どもに対する虐待. 一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会「プライマリ・ケア」. 3:42-45, (2017)
- 香田将英. 予防医療のエビデンス5. うつ病スクリーニング. 一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会「プライマリ・ケア」. 2:46-49, (2017)

◆ 研究

□ 松井邦彦

『熊本地震における医療支援活動の振り返りと、今後への提言』

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究分野：社会医学、看護学およびその関連分野

期間：平成29年度～平成30年度

□ 小山耕太

『地域での地域医療実践教育拠点による総合診療及び総合診療医教育体制の有用性の検討』

研究種目：若手研究B

研究分野：医療社会学

期間：平成29年度～平成30年度

◆ 学会発表

- 高柳宏史, 香田将英, 前田幸佑, 小山耕太, 佐土原道人, 田宮貞宏, 古賀義規, 後藤理英子, 谷口純一, 松井邦彦, 【国際プライマリ・ケア分類（ICPC）を用いた公立玉名中央病院総合診療科の初診患者診療分析報告】, 第7回九州地域医療教育研究会, 2017/4/8
- 山下ちひろ, 高柳宏史, 香田将英, 前田幸佑, 佐土原道人, 小山耕太, 田宮貞弘, 古賀義規, 後藤理英子, 谷口純一, 松井邦彦, 【熊本地震被災地である南阿蘇村の医療機関を視察して】, 第7回九州地域医療教育研究会, 2017/4/8

- **小山耕太**, 【地域における総合診療科及び地域医療実践教育拠点を中心とした総合診療医教育体制の有用性の検討】, 第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2017/5/13-5/14
- **前田幸佑, 香田将英, 高柳宏史, 小山耕太, 後藤理英子, 谷口純一, 松井邦彦**, 【最終的に悪性疾患の診断となったNumb chin syndrome (NCS) の2例】, 第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2017/5/13-5/14, 口演
- **田中顕道**, 【総合診療科・専攻医による初期研修医の教育における工夫と実践～初期研修医は突然やってくる～】, 第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2017/5/13-5/14, ポスター
- **高柳宏史, 前田幸佑, 小山耕太, 佐土原道人, 後藤理英子, 谷口純一, 松井邦彦**, 【熊本地震の被災地を舞台に熊本県修学資金貸与学生を対象に行った夏季地域医療実習の報告】, 第49回日本医学教育学会大会, 2017/8/18, ポスター
- **佐土原道人, 田村幸大, 今西康次, Kanan Ramar**, 【アメリカの呼吸器, 集中治療専門医による2年次研修医に対する人工呼吸器セミナーの試み】, 第49回日本医学教育学会大会, 2017/8/18-8/19, ポスター
- **香田将英, 盧溪, 加藤貴彦**, 【ヘテロサイクリックアミン暴露と前立腺がん罹患リスクに関する分子疫学研究】, 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017/10/31-11/2, ポスター
- **香田将英, 谷口純一, 松井邦彦**, 【卒前教育における「災害時の精神・心理ストレス」の導入: 熊本地震の経験をふまえて】, 第23回日本集団災害医学会総会・学術集会, 2018/2/1-2/3, ポスター
- **佐土原道人, 田宮貞宏, 前田幸佑, 小山耕太, 高柳宏史, 後藤理恵子, 谷口純一, 松井邦彦**, 【医師修学資金貸与生, いわゆる地域枠入学および自治医科大学卒業生に優しい総合診療専門研修プログラム】, 第16回日本病院総合診療医学会学術総会, 2018/3/2, シンポジスト
- **佐土原道人, 下地徹, 田宮貞宏**, 【口腔衛生の改善で軽快したSAPHO症候群の一例】, 第16回日本病院総合診療医学会学術総会, 2018/3/2, 口演

◆ 講演会 (講師)

- **香田将英**, 【熊大で, 魅力的・効率的・効果的に学生生活をおくるために】, 熊本大学医学部医学科 新入生オリエンテーション合宿, 講師, 2017/4/8
- **榎直晃, 安成英文**【プライマリケア医に必要な緩和ケア】, 玉名在宅ネットワークカンファレンス, 2017/4/27
- **森英毅, 向原圭, 北村和也, 斎藤さやか, 香田将英, 日下伸明, 宮崎景**, 【WS2. 根拠に基づいた予防医療: 個々の患者に対するアプローチ, 地域に対するアプローチ (ワークショップ)】, 第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 講師, 2017/5/13-5/14
- **高柳宏史**, 【メインシンポジウム1 南海トラフ地震に, プライマリ・ケアができること シンポジスト 「災害における家庭医療・総合診療の役割 ～東日本大震災と熊本地震での経験をもとに～」】, 第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2017/5/13-5/14
- **高柳宏史**, 【ワークショップ25 研究ポートフォリオに使える! ICPC-2実践編】, 第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 企画責任者・講師, 2017/5/13-5/14
- **田宮貞宏**, 【特別講演「総合診療を通じた玉名での試み」】, 第49回熊本県医学検査学会, 2017/5/21
- **高柳宏史, 加藤光樹**, 【家庭医療後期研修なぜ? なに? に一気に答えます 第1部 専攻医・指導医に役立つ情報】, 平成29年家庭医療後期研修 合同オリエンテーション, 2017/6/3
- **高柳宏史**, 【災害後の地域連携】, 上益城郡医師会講演会, 2017/6/14
- **榎直晃, 安成英文**, 【子どもの罹りやすい病気について】, 第17回玉東町子育て支援講座, 2017/6/19

- **高柳宏史**，【熊本地震における継続的な関わりについて振り返る～益城町への支援活動～】，平成28年熊本地震JRAT活動検証・研修会，2017/8/5
- **佐土原道人**，第22回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会 タスクフォース，2017/9/2-9/3
- **佐土原道人**，第140回臨床研修指導医講習会 タスクフォース，2017/9/29-10/1
- **佐土原道人**，【総合医が見る関節痛～よくある愁訴のまれな疾患を見逃さない】，熊本県医師会平成29年度日本医師会生涯教育講座，2017/10/14
- **前田幸佑**，**小山耕太**，**佐土原道人**，**谷口純一**，**松井邦彦**，【総合医が見る発熱 よくある愁訴のまれな疾患を見逃さない】，熊本県医師会平成29年度日本医師会生涯教育講座，2017/10/14，口演
- **松井邦彦**，【がん診療ガイドラインの評価方法】，第55回日本癌治療学会学術集会 がん診療ガイドライン統括・連絡委員会企画シンポジウム，2017/10/22
- **河島譲**，**原田奈穂子**，**松尾寿栄**，**上山寛満**，**香田将英**，こどものための心理的応急処置(PFA)研修会，講師，2017/10/29
- **香田将英**，【災害支援における多職種連携】，災害福祉支援活動基礎研修2017(石川会場)，講師，2017/11/3-11/4
- **松井邦彦**，【熊本大学医学部医学科の臨床教育、特に地域医療教育における取り組み】，第8回熊本県医療人育成総合会議「地域包括ケアシステムと医療人育成」，2017/11/18
- **佐土原道人**，【医学・医療概論2「医の倫理とプロフェッショナリズム：（1）医療専門家と社会の期待のギャップ、（2）生命医療倫理」】，札幌医科大学，2017/11/24
- **井清司** **笠岡俊志** **西岡和男** **松園幸雅** **田宮貞宏**，【パネルディスカッション「救急隊員の教育」】，第60回熊本県救急教育セミナー，2017/11/30
- **原田奈穂子**，**千島佳也子**，**松尾寿栄**，**香田将英**，スフィアスタンダード研修会，講師，2017/11/25-11/26
- **佐土原道人**，【医学・医療概論2「医の倫理とプロフェッショナリズム：（3）医療と社会のギャップ、（4）省察的实践」】，札幌医科大学，2017/12/1
- **楯直晃**，**安成英文**，**田宮貞宏**，【末期がん患者の在宅緩和ケアを玉名在宅ネットワークを通じて行った1症例】，第25回有明緩和ケア研究会，2017/12/21
- **佐土原道人**，第143回臨床研修指導医講習会 チーフ・タスクフォース，全国自治体病院協議会主催，2018/1/12-1/14
- **原田奈穂子**，**千島佳也子**，**宮本純子**，**甲斐総一郎**，**谷寛文**，**伊藤衆子**，**香田将英**，フィアスタンダード研修会，講師，2018/1/18-1/19
- **香田将英**，【これからの医学と医療を考える】，熊本高等学校分野別講演会，講師，2018/1/30
- **村山愛**，**高瀬義祥**，**高瀬愛**，**五嶋嶺**，**香田将英**，**河合皓太**，**杉谷真季**，**三浦太郎**，**関口裕美**，【プレセミナー4 ジェネたま冬の陣 ～初期研修、あと1年どう過ごす！？～】，日本プライマリ・ケア連合学会 第13回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー，講師，2018/2/10-2/11
- **香田将英**，**森英毅**，**向原圭**，【ワークショップ2，根拠に基づいた予防医療：個々の患者に対するアプローチ、地域に対するアプローチ】，日本プライマリ・ケア連合学会 第13回九州支部総会・講習会，講師，2018/2/3-2/4
- **小山耕太**，【「総合診療医の育成」～熊本大学の取り組み～】，日本プライマリケア連合学会九州支部総会，2018/2/3-2/4
- **佐土原道人**，第23回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会 タスクフォース，2018/2/17-2/18
- **高柳宏史**，ポートフォリオ・ログの活用・指導法，熊本総合診療研究会学術大会，2018/2/24

7 おわりに

1. スタッフから一言

■ 谷口 純一 特任准教授

今年度は、昨年度に引き続き、個人的には、大学に設置された地域医療支援センターの教員として、同センター業務と、それ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性をつけつつ、業務遂行を行なったつもりです。地域医療支援センターの定例ミーティングを今年度から開始し、機構業務の確実な遂行及び新しく実施する業務のアイデアに関して意見交換を地道に行い、それなりの成果があったと感じています。また、地域医療・総合診療実践学寄附講座とも連携を取りながら、新しい総合診療専門医制度の熊本での導入と発展の足がかりを進めたつもりでもあります。

具体的には、地域医療支援機構としては、自分の活動として、特に、

- 1) 県内地域医療機関関係者との面談と分析・対応検討
- 2) 地域医療構想に関して、県内全病院調査の準備と実施
- 3) 地域医療関連の卒前教育の充実化
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
- 5) 地域医療機関の診療支援
- 6) その他、機構関連諸業務（運営会議、連絡調整会議、理事会、等）

また、機構業務以外の従来業務の方は、

- 1) 大学病院総合診療科外来診療
- 2) 医学部医学科の卒前教育での複数の授業・実習
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
- 4) 卒後初期研修・専門医研修（総合診療）の指導・プログラム管理補佐
- 5) 学外のような依頼業務（共用試験実施評価機構委員、臨床研修指導医養成ワークショップ等）
- 6) 学会や行政の各種委員会等（特に、熊本総合診療研究会の運営）

に取り組んだつもりです。

上記業務は、前年度から更に成果を上げたと思われるものもあれば、これから更に充実・整理させていく必要性のある部分もあります。次年度に向け、自部署関連の協力・強化と、外部のご理解・ご支援を更に活かせる様に取り組んでいく所存です。

■ 田宮 貞宏 特任准教授

2017年度ももっぱら玉名教育拠点での業務に携わりました。

公立玉名病院の診療業務の支援としては、総合診療科スタッフが前年度よりさらに救急外来での任務を拡大し、院外からの応援医師の力をお借りする時間もありますが、日勤帯の内科系業務をすべてカバーする事となりました。これにより院内の各臓器専門診療科も専門診療に集中できる環境が整いつつあり、診療業績の向上した診療科もみられています。拠点設置時の期待が具現化されつつあるものと思われます。

教育面では、受け入れクリニカルクラークシップの医学生、初期臨床研修医、専攻医の数が2017年度はさらに増えており、指導医のおよび事務系スタッフの業務の負担も当然増えています。一方で数量化するのには困難なのですが、初期臨床研修医、専攻医を通した診療科間、職種間の連携の質は明らかに改善している実感があります。拠点の設置がスタッフの負担増という負の側面だけではなく、病院診療の活性化、質の向上といった計り知れない価値をもたらし得ることを今後、発信していければと考えています。

玉名を研修の場を選んでくれる医学生、若手医師の皆さんには問題に迅速に答えを出す価値だけではなく、答えの出ない事態にも耐える力（ネガティブ・ケイパビリティという言葉もあるようですが…）も養ってもらいたいと思っています。彼らが良いパフォーマンスができるように次年度もピッチコンディションの向上に努めていきたいと思っています。

■ 佐土原 道人 特任助教

昨年度から地域医療・総合診療実践学寄附講座にお世話になっております。診療では、週2回の総合診療科の外来、外勤では、公立玉名中央病院の救急部門、天草地域では、前半は牛深市民病院、後半は天草地域医療センターにお世話になりました。卒前の教育では、総合診療学、公衆衛生学、医学英語の授業、OSCE、早期体験実習などに携わりました。卒後臨床研修では、長期にローテーションを選択した研修医の先生を総合診療外来で指導をする機会がありました。民間の医療機関とは、診療、教育、マネジメントも大きく違うというのをあらためて実感しています。

これまでと、生活も一変しましたが、これまでよりゆっくり働けて、ワーカホリックは、軽快傾向にあるようです。20年ぶりの熊本ですが、地理的なことも徐々に思い出し、忘れていた熊本弁も取り戻しつつあります。熊本も、新しい建物が建ち始め、ようやく震災の影響から抜け出す兆しがでてきております。地域医療の支援を通じて、地域の再生の一助になればと思います。今後ともよろしく願い致します。

■ 後藤 理英子 特任助教

2017年度はこれまでの男女共同参画事業が少しずつ認知されてきたことを実感できた年でした。また、新事業としては、マタニティ白衣の貸出・メンター制度を開始いたしました。

マタニティ白衣は利用された医師の評判もよく、来年度にはマタニティパンツの貸出を考えています。メンター制度はボランティア活動であるにも関わらず、多くの先生方にご協力いただき、誠に感謝申し上げます。メンター連絡会議や各種セミナーなどを通して同じ志をもつ先生方とネットワークを作ることができ大変心強く感じています。

また、今年度は4月から1月までに延べ84件の様々なご相談をいただきました。復職・就業継続のため利用できる制度や育児・介護支援についてのお問い合わせが多く、また管理者の方からは求人情報の掲載依頼を多数いただきました。女性医師の活躍できる場を提供して下さる医療機関が増えてきており、大変有難く感じております。

お留守番医師制度の登録医療機関も増え、現在3人の医師が活躍中です。日本医師会の女性医師支援事業 連絡協議会でこの取り組みが紹介され他県からのお問い合わせも増えました。これから迎える超高齢化社会に向け、在宅医療を担う医療機関が増えることを心から願っています。

また公的病院、100床以上を有する病院に勤務されている全医師にご協力いただいた「学童保育のニーズ調査」では半数以上の医師が学童保育の利用を希望し、特に女性医師のニーズは7割を超え、夏休みなどの長期休暇の際の子どもたちの過ごし方に不安を抱えていました。これまでのアンケート結果からも子どもが小学生になると公的病院を離職される女性医師が多いことが予想され、学童保育の充実が望まれます。

今後の男女共同参画の課題は、男性医師も含めた働き方改革、後輩を指導できる女性医師の育成、再教育プログラム、育児・介護支援のさらなる充実・・・と山積みです。これまでご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げますとともに、今後ともどうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

■ 小山 耕太 特任助教

2015年4月に公立玉名中央病院に新設された「地域医療実践教育玉名拠点」(当拠点)に特任助教として着任し、早くも3年が経過しました。当拠点は、地域医療を志す医師、臨床研修医及び医学生に対し、総合診療医が地域医療を実践しつつ教育することで地域に貢献できる医師を養成し、更に地域の医師不足解消を目的としています。その一環で総合診療科を当拠点主導で新設し、外来・入院・在宅診療に取り組んでいます。指導医は常時3名が在籍し、専攻医・研修医と共に診療を実践しつつ、教育を行ってきました。卒前から卒後、総合診療専門医研修プログラム所属の専攻医まで、一貫した教育指導体制を整備することで、一定の効果を様々な方面から感じつつあるこの頃です。▶

今回、この3年間の取り組みと、そこから得られた成果について、「平成29年度科学研究費助成事業」に採択され、平成30年度には調査し、発表する予定です。

熊本での地域医療戦略を、熊本県外にも広く公開し、多くの方々のお役に立てるよう、更に発展的に取り組む所存ですので、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

■ 高柳 宏史 特任助教

平成29年度は、教育、臨床面で新しい取り組みを行いました。家庭医療学について初めて熊本大学での講義を行いました。これからも家庭医療を卒前教育の中でふれていきたいと思えます。しかし、熊本県内では家庭医療を実践している場がまだまだ充実しているとはいええない現状にあります。今後の展望としては、家庭医療学の実践する場を作り、それらを教育することができる場を作ることができたらと思えます。そういえば、英国のDr. Rose Nearyを熊本にお招きして、彼女との対話を通してそれらの方向性を再認識し承認してもらえたことはうれしかったです。Think global. Act local.

熊本において、どのようなモデルを提示できるようになるか、これからが楽しみです。できなかった場合は、誰かがやってくれるでしょう。一人では無理です。今は仲間作りでしょうか。

それと、プライベートでは、昨年夏に新しい家族が増えました。状況が変わると、それによって家族の在り方も変わる。当然なことですが、それを実体験として経験することで、自分自身の医師としての患者さんたちへの声掛けにも変化がありました。年を重ねるたびに、患者さんとのコミュニケーションが変わるのですが、それが成長なのか、進化なのか、ただの変化なのか。これからも精進していきたいと思えます。

■ 前田 幸佑 特任助教

2016年4月に特任助教として当講座に着任し、早2年が過ぎ去ろうとしております。附属病院内での業務としては主に総合診療科の外来や学生の授業・実習等に携わり、また、地域医療支援としては上天草市立上天草総合病院、公立玉名中央病院で勤務を行って参りました。特に、2017年10月以降は公立玉名中央病院で主に勤務しており、楽しく毎日を過ごしております。さらに、社会人大学院生として基礎研究にも取り組んでおります。

この1年間を振り返ってみて思うことは、やはり私自身、臨床が大好きだということです。2017年10月から公立玉名中央病院で勤務しておりますが、毎日が本当に刺激的で充実し過ぎていると言っても過言ではないぐらい楽しいです。その大好きな臨床のレベルをさらにupさせるには、ひたすら診療経験を積むことはもちろんのこと、それ以外に、大学で実践しているアカデミックな医療、学生・研修医への指導、研究など様々な分野の経験が必要不可欠ではないかと考えております。昨年同様、慌ただしく過ぎ去ってしまった1年ではありましたが、来年度も引き続き努力して参りたいと思えます。普段の臨床業務に加え、学生・研修医への指導、大学での業務、基礎研究とdutyが多く、どれも十分な時間を割くことはやや困難ではありますが、弱音を吐くことなく、また、自分に負けないよう、何とか工夫して、努力して、よりアクティブに、攻めの姿勢で取り組んでいきたいと思っております。来年度もより実りの多い1年になりますよう精進して参りますので、今後とも引き続き宜しくお願い申し上げます。

■ 香田 将英 医員（大学院生）

まず、平成26年より熊本大学大学院公衆衛生学分野の博士課程に進学しておりましたが、無事学位取得することができました。これまでご指導・ご支援いただきました皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

平成27年の熊本地震の際には、日本プライマリ・ケア連合学会災害支援プロジェクトと協働させていただいたのですが、その後から今年度も引き続き現在に至るまで益城町における地域と行政職員へのメンタルヘルス支援に関わっております。この経験をきっかけに、今年度に至るまでに、産業医、こどものための心理的応急処置（PFA）トレーナー、支援の質とアカウンタビリティ（Q&A）トレーナーの資格を取得し、実際、今年度は、PFAは宮崎開催、Q&Aは宮崎と徳島開催の際にトレーナーとして参加させていただきました。▶

また、熊本大学医学科4年生のチュートリアル実習の中でも、PFAとQ&Aの内容について触れた災害時の心理ストレスについて講義をする機会をいただきました。

また、日常業務の中では、教育拠点である公立玉名中央病院に週1回の診療にあたり、初期研修医・実習医学生の教育と地域医療貢献に僅かながら関わらせていただきました。卒業後かけだし間もない私が、このような診療・教育・研究・地域活動と多岐に渡る経験ができたのは、ひとえに講座の事務・先生方のおかげであり、大変有り難く思っております。

これからも、「今の自分ならできること、今の自分にしかできないこと」をモットーに、日々取り組んで参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

今年度一番の思い出は、夏季特別実習で学生さんと一緒に天草市御所浦町に行き、地域の医療や福祉などを勉強させてもらったことです。診療所の先生・スタッフの信念、特別養護老人ホーム理事長さん達の熱意など、離島の皆さんの厳しい環境の中での尽力に頭が下がりました。もちろん、新鮮な魚のあら炊きにも感動しました。

今年になって寄附講座の先生が御所浦に診療に行かれることになりました。海が荒れる日でも、揺れる船に乗って務めを果たされる医師、何度も乗り継ぎ遠隔地で診療に向かわれる医師の姿に敬服しながらも、地域に必要な人材がもっと多くなるため、少しでもお役に立てればと思っています。

坂田 正充
地域医療支援
コーディネーター

今年1年を振り返ると、卒前の地域医療教育が格段に充実してきたことが実感されます。

まず、夏季学生地域医療特別実習が従来の実習から大きく転換したことです。

これは、天草市と地元医師会等の絶大な協力があつたから出来たわけですが、「地域を知る!」というコンセプトに基づき、学生が主体となって自ら立てた課題に沿ってフィールドワークを行い、地域の問題と改善策をまとめ上げることができた点は大いに評価されるものでした。

次に、クリクラ（特別臨床実習）に提供している「地域医療」が充実したことです。平成25年度から実施してきた「地域医療」は、当初3医療施設の協力で僅か1ターム（1タームは3週間）だけの開講でスタートしましたが、本年度は13医療施設の協力を得て、全7タームで開講する事が出来ました。参加学生も初年度は4名だったのが、58名までに増加しました。これは、医学部6学年の約半数が受講したことになります。

今後ますます、充実させていく必要があると感じています。

柚原 敬三
地域医療支援
コーディネーター

女性医師の就業継続・復職支援のため「もう一度臨床へ支援事業」を県から委託され1年3か月が経過しました。ホームページやテレビ、フェイスブック、チラシ等での広報活動により相談者も増え復職にもつながっています。

茶話会では、日頃の悩みやキャリアアップのための情報交換など、女性だけでなく男性にも参加いただきアットホームな雰囲気の中で毎回楽しく開催しています。医師として忙しい中でも家庭と仕事の両立のための工夫や、キャリアアップに関することなど意識の高さとパワフルでエネルギッシュな方が多く、私としてもいつも勉強させていただいています。

最近では、育児をされている男性医師も増えつつあります。性別に関係なく仕事や家庭の事など支援していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

高塚 貴子
女性医師復職支援
コーディネーター

本年度、印象的だったのは、「天草での夏季実習」と「地域医療ゼミ」の活動です。「夏季実習」では、行政機関、医療機関の皆さまのご協力、ご支援をいただき、大変充実した内容で行う事が出来ました。特に、軽快なハイヤ節の生演奏の中、生き活きと踊る皆さんの姿は大変印象的でした。

また、「地域医療ゼミ」では、上級生を中心に学生同士で担当を分担し、毎回テーマを決めて勉強会を行っております。学生の皆さんが熱心に企画し、上級生が下級生を思いやる場面が多々見受けられ、とても印象的で、今後のゼミに期待を寄せております。これからも、教育熱心な先生方、事務の皆さんと一緒に、学生の皆さんのサポートをしてまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

久保 清美

地域医療・総合診療実践学寄附講座で、主に夏季地域医療特別実習、総合診療専門研修プログラム、教員のサポート、予算の管理、セミナー、熊本総合診療研究会等の事務を担当しております。こちらにお世話になってもうすぐ2年になりますが、先生方の熊本の地域医療の現状を良くしようと奮闘される姿や、若い医学生の皆さんが将来の熊本の地域医療のために日々勉強や実習を頑張り成長していく姿を間近で見られるこの職場にいられることを幸せに感じております。この年間報告書も年々内容が濃く多くなってきており、ついに今年から夏季実習活動報告と年間報告は別に作成することになりました。このセンター／寄附講座は今後どんどん大きな組織になり、それに伴い庶務も増えることと思います。少しでも皆さんの仕事が円滑に行えるように、陰ながら今後もサポートしていきたいと存じます。よろしく宜しくお願いいたします。

山並 美緒

ふと気が付けば平成29年度も終わりが近づき、振り返ってみると、今年度は熊本県地域医療支援機構、地域医療支援センターの業務に加え、熊本県女性医師キャリア支援センターの事業にも携わらせていただき、地域医療の抱える課題だけでなく、女性医師の活躍の場についても考える機会となり、多くの気づきと学びがありました。

また、前任者より業務を引継ぎ、慣れないことも多く慌ただしく時間が過ぎていったような気がしますが、忙しくもとても充実した1年だったと感じます。

それと同時に、業務を行っていく中で、様々な場面で先生方・スタッフをはじめとした多くの方々に支えられていることを実感する年でもありました。

皆様いつも、ありがとうございます。

これからも支えてくださる方々に感謝の気持ちを持ち、また自分もそのような一人になれるよう精一杯サポートしていきたいと思っております。

横手 友紀子

機構及び寄附講座の講演会ポスター作成や報告書のデザイン・編集作業、活動写真の撮影、ビデオカメラでの撮影、映像の編集、スライドの作成、HPの編集・更新、オンライン診療支援ツールの運用管理、システムの開発、機器類の整備など、幅広く担当しています。

月日が流れるのは自身が思うよりも存外早いもので、もう1年が経ってしまったことに驚きと感慨深さを感じています。今年度は講演会やセミナー、イベントがさらに多く、月に1枚以上ポスターやチラシを作っていたように思います。「伝えること」は難しく、どんなモチーフで、どんなイメージで作れば、相手に正しく、魅力的に伝わるのだろうかといつも悩んでいます。来年度もたくさんのイベントごとがあると思います。企画した先生方の熱い思いが、講演してくださる講師の先生方の講演の内容が、もっと伝わるようなポスターやチラシを作ろうと思います。

中川 実咲

2.あ と が き

2014年度に地域医療支援センターが設置され、我々が赴任して今年度で4年目となりました。今年度は、震災の翌年度であり、震災復興とともに、通常業務の遂行が進み、新しい地域医療・総合診療実践学寄付講座、県庁と連携して事業を実施してこれたと感じております。

地域医療支援センターとしては、今年度は、地域の医療機関の関係者とより密に情報交換を行なったつもりですが、次年度は、より实际的に地域医療の関係者と協議する場を作っていこうと思っています。男女共同参画事業も「熊本県女性医師キャリア支援センター」として本格的に大学に設置され、後藤特任助教と高塚コーディネーターを中心に新しい事業が進んでおり、更に支援体制が充実化していくと感じております。こちら、より一層のご理解を賜りたいと願っております。

また、公立玉名中央病院での学外の教育拠点事業は、卒前教育、臨床研修、そして総合診療の専攻医研修と連動した教育体制が更に充実しつつあると思います。これも、同院の中野病院長を始め、関係者の多大なるご理解・ご協力があったと感謝する次第です。幸いにも、2018年4月から開始される事が決まった新しい総合診療専門医制度も、6名の専攻医が来る予定で、より一層体制を整えて行なっていく事を支援して行こうと思っています。

最後に、水田病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援頂きました。また、当地域医療支援センターの事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なるご助力を頂きました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解頂いた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しくお願い申し上げます。

地域医療支援センター 谷口 純一

熊本県地域医療支援機構



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
Tel: 096-373-5627 Fax: 096-373-5796
E-mail: chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp
HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
Tel: 096-373-5794 Fax: 096-373-5796
E-mail: chiiki_soushin@kumamoto-u.ac.jp
HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/>

平成29年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

